



Handwritten text in black ink, likely a title or identifier, possibly reading "1170 545".

3869
68



68
3869
68

3942

叙

三ノノ靴目

大正七年三月廿四日
室井平藏氏贈

わてゝあせあせとていふことあり
御方の貴方へ先小間の
月小唄に上るは清和を
竊にすと送化者の標せ
さゝいふれとふれと事
比ふのさふ物へゆりぬ
とて書、積りてふのぬ
ふかゆる及古の中うらま
此の一巻は十布ふ似ぬ
仔細をあらりとて守固ふ

多きおれをある人様中
縷々しくとを乞ふ遂
小許川一侍のぬ

寛延三癸酉年正月

兒池不款

子孫于浪差之酒を重



能譜三天のむら

能い日和



人年 跡^エたる 流^{ワタ}しち
いりりへ^{ヘン}とく^シと^シ人^シ奇
五^{ヘン}の^シす^シた^シあ^シを^シも^シ石
ニ^{ヘン}か^シア^シる^シ不^シニ^シの^シ山
阿^ホ免^ウ家^ウ引^ウも^ウ一^ウ里^ウ出^ウ
を^ウぬ^ウを^ウ老^ウの^ウ遠^ウ歩^ウの^ウ
嫁^ヤは^ウれ^ウて^ウあ^ウる^ウ揚^ウ子^ウ城^ウ
碁^ゴを^ウ追^ウた^ウて^ウあ^ウり^ウを^ウ型^ウ
布^フ座^ウる^ウ家^ウふ^ウと^ウり^ウ立^ウ子^ウ
釣^ツ針^ウま^ウり^ウて^ウ所^ウる^ウ此^ウ妻^ウ

なまじりかふ

^{ナギナタ} 薙カのつゝ、居る供あ者

事付をかりけり上も

柳をまき、碓うり

かせふ、身をうん角がり

あだんの伝、形地

たでむかぐ、ちんを

庭をさして、束の尻

たうおのさかり、味く、ま

身、つではく、*Shower*

一人のち、あが、な、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

砂、ら、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

人、形、ま、ひ、の、柿、は、え、ん

か、さ、は、だ、と、ま、り、ど、あ、だ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

夕、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ

人、玉、の、出、お、お、の、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

おもしろや

たがひも叶う久しぬり
流るる水も又ふり有る
こゝろもいほのまきこたう
志のび語都の亭の琴
名のまき日土石こしれ
又かんてやうも燭の灯
聲かゝるをむう日土
よ赤田の風もまきを
こたうかゝるをむう日土
くの信はぬ知ぬぬ柳か枝
叶もかきつるをむう日土

よの月夜

ユカタ
浴衣でもきこひつゝい髪
シヤウブ
草蒲のうらうらも水鏡
ゆきりしつゝまのたて
おろかか嫁のたいごころ
土橋をよほりて
ウラ
素着もきこひつゝい髪
火あきす抱ものも作
さしおち止琴のほろ
柳かきつるをむう日土
まのよ抱つゝまのたて
よ成男子もきこひつゝい髪

いそくと

せんちて侍て暮るお茶
野ふ有る綿を流しと
面が入るやげあるわらこまの
白雨もやうな中やうり
多押巻のうらまじ
田ぶまんけつ、云々やけ
はご岩のちひ火うちお
若ふけく婿のつてぶとん
庭あ捨じし新廬り
まげこころもら七有る初折
はらゝせと暮る居るでる

口をいふと

餅やが、出かほの餅ひ
元や、おあつと、い下
大京ふと棟たる信才曰士
小宮が暮れて門凌ひ
笑ふぬかりしうぞん好
付て暮る首を金せ
大カキお後平、知と母
入鼻まらる酒の酔
入蓮のさあ、大さ
着替れ、かりぬげ、照り
あるをむら、を暮るほの餅

口利や

手利キと呼れ婦人等

たあくキ等々キや本その者

一生キ縁キ頼キたわりキ燦キく

十年キ一キ義キ心キたつキぢキせん

こもキ傍キ々キ果キらキかキこキさキ付

本キ義キのキ逆キ糸キでキあキらキび

養キをキまキしキこキあキえキるキ月キ某

詠キ部キでキやキりキ田キ始キれ

屋キりキおキまキいキのキさキりキ吟キみ

柳キ橋キあキらキくキ振キりキ遊キ遊キ

らキつキこキ一キつキでキ老キ女キ房

コエんさ

あキ方キ小キ南キ好キ多キ山

毒キのキさキざキいキむキ干キしキ大キちキ根

るキ吟キみキ城キのキ詩キ出キたキれ

白キいキ挿キあキふキあキつキこキあキり

黒キきキまキるキふキ人キあキらキたキんキ此

母キをキゆキびキぎキらキ確キのキ端

おキ性キ本キはキはキらキみキつキてキあ

婦キ入キのキ庭キのキうキつキらキりキ某

帯キのキあキらキはキしキ結キあキらキいキけ

十キ一人キでキたキらキらキなキ 務

場キ右キのキ入キ遠キ吐キつキてキかキけ

無理やりよ

自體の家へ嫁入す
ありいさや、鼻の骨は
おどろきしる男にて
勢の強のはくみたるこ
風呂場へ何の奥がこ
より中が焚きて喰ひつら
糸の初をわがまひりけ
くまの尻に小でうちん
あね持て来るるねん
世の中をむのいそあそ
利ハ、胸でけしきつ

斤あそ

シヤウユ

けちさの光る物、扱人
巻くもみふける一ツ虫
葉の香の有る氣うへ
尺牒の中のじしろ帯
ききよふ成し針はき
猫の耳ふくおひとん
妹のふふいあがあぐい
だんごりの有る林多
アレガ、射のふつとん
娘ふ、抱をまきこせ人
空るを、空のほろごうは

とらりりり
既申のことやうかゞうき見
西スレまて浮スレて有衣戸
くスレるをぬき老女がう
七ケ賢ケのまねケすケるケり
おまスレたスレもスレしスレるスレ入
まスレ所スレ店スレのスレちスレしスレ所
落スレふスレたスレのスレまスレいスレるスレ世
嫁スレ父スレのスレ着スレふスレ母スレのスレ琴
昔スレ昔スレ浦スレをスレとスレ画スレむスレんスレの上
手スレもスレ知スレらスレぬスレ出スレづスレまスレふ
うスレおスレをスレ実スレ母スレむスレもスレ愛スレれ

清くして

板木で終る板木彫
舟で終る干スゴキ儀ゴキ赤ゴキ丸
妻ゴキ草ゴキでゴキ清ゴキ命ゴキ聖ゴキ凡ゴキ品ゴキのゴキ尖
隣ゴキの下ゴキをゴキ切ゴキをゴキかゴキらゴキる
中ゴキ戸ゴキでゴキ花ゴキ袖ゴキ引ゴキたゴキらゴキる
やゴキぶゴキ入ゴキ所ゴキりゴキ阿ゴキまゴキるゴキ飯
水ゴキのゴキのゴキ腰ゴキおゴキんゴキわゴキらゴキえ
善ゴキ徳ゴキをゴキ又ゴキをゴキるゴキ火ゴキ燭ゴキのゴキ尖
たゴキかゴキまゴキるゴキ身ゴキをゴキ吟ゴキふゴキ推ゴキ飯ゴキ
一ゴキトゴキまゴキみゴキかゴキやゴキもゴキ約ゴキのゴキこゴキし
親ゴキにゴキ行ゴキ袖ゴキ着ゴキせゴキてゴキ又ゴキる

船のつり

後人の見る家のいふと
とていふと怪ふぬいのいと
五方の坂行たふふかい
かまじしむむ二日酔
玉環がしかり無様
泣の中仕のりぬるふ
妹布くまては海う橋
柿まんだれの揃ふ葉
下参り着る神りえとくお
魁^{ハク}のり^イり^テ泊^ルて^来る
肉^{ハク}の^イつ^テあ^ルて^来る^{ハク}は^イて^来る

ふこしくと

袖へ着てアるありお区
何となくお解^トる^{ハク}の^{ハク}帯
当流の整^トり^{ハク}を^{ハク}こ^{ハク}せ
やぶ入のぞく^{ハク}ら^{ハク}名^{ハク}身^{ハク}を^{ハク}解^ト
でりちら^{ハク}直^{ハク}の^{ハク}あ^{ハク}る^{ハク}出^{ハク}お^{ハク}葉^{ハク}
吟^{ハク}の^{ハク}あ^{ハク}の^{ハク}ぞ^{ハク}く^{ハク}ヤ^{ハク}ム^{ハク}来^{ハク}伽^{ハク}
整^{ハク}の^{ハク}整^{ハク}の^{ハク}ま^{ハク}く^{ハク}な^{ハク}て^{ハク}る^{ハク}
孫^{ハク}の^{ハク}名^{ハク}を^{ハク}こ^{ハク}く^{ハク}う^{ハク}ち^{ハク}ま^{ハク}
古^{ハク}く^{ハク}あ^{ハク}ら^{ハク}る^{ハク}傍^{ハク}の^{ハク}う^{ハク}ね
園^{ハク}を^{ハク}み^{ハク}だ^{ハク}て^{ハク}い^{ハク}ま^{ハク}を^{ハク}た^{ハク}く
若^{ハク}人の^{ハク}出^{ハク}る^{ハク}日^{ハク}新^{ハク}ア^{ハク}ん^{ハク}や

かきこころ

西三ヶ峰ハナいこころに付
如まおどりし新寺屋
かぐ下地かど明ちお見
一里んアハ晴る雨を争りし
飛名己れくはおふ人
望みで出立し一ハ強
素者へ呼返るち三獅子
ヨットヨこゑこと四一たどく
築根をこ健てこハま
掘るもをかむほハん
大は終の男へ交りあり

の川

多村の跡アハ入まある目足
五日世つるを人て庚り
おろふ虫へハり
函中一字かつるハん
季あ吟れハもヨ母
夏ウキ事本知ハぬ出立業
大掘テウの業を角り
海アハの松ハ下スハあハこ
ちとハのハ杖で汲
聖ハ出ハこの舟をハ

おどくくと

女のおどくたか〜ど〜ま
ちうがくい東の巻所
盤の長ひが満老のだて
目ふいまのそき法〜ちり
孫生六幕、まろを〜合の
も紙の戻〜い〜い程
吸相こまり料〜程あし
四月八日あ〜の目
者をこたうの有ん所
仲人のま〜けし〜あが〜こ
おりののがり〜つら〜持

おどくくと

ちりあふあ毎わうかあり
大ニキ法ッ法大々名
吐鼻の毒〜目〜角カカ
離の夏〜い名〜名
西瓜を〜着〜く〜あ〜あ
お糸のおいけら〜あ〜あ
法年〜り〜あ〜ひ〜ま〜あ〜あ
ま〜あ〜代りのあ〜あ〜あ
ま〜ん〜中〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ

ちりやい

三まはくつこもせしち
橋ハシ不重フシゲ並ナリ河カハ一ヒト舟フネり
月の海ウミ物モノるルかカくクのノかカき
未ミ負ネのノ身ミのノたタるル一ヒトも
隣トナリみミふフそソりリかカ傳ツタへヘ形カタ
菖アヤメ蘭ランのノもモぞゾりリ西ニシびビ海ウミ
まマづズ胸ムネぞゾのノかカもモあアり
月ツキのノ一ヒトとト扱ツみミうウけ
未ミあアづズらラのノ一ヒトとト海ウミ鯉ニギハヤヒ
伏フせセ心ココロちチるルるルびビのノ衣イ
上ウへヘ一ヒト行ユクるルるルびビのノ灯トウ

ちりやい

かカ下カかカさサ持チるルあアまマやヤせセり
ごゴらラいイもモ二ニなナ目メのノ舞マヒ
町チヨウ中チュウをヲ念ネンがガらラあアり
吐ハク血ケツえエとト小コ四シ布フたタ揃揃り
かカえエ振フリ舞マヒはハるル女メがガいイ
村ムラ垣カキまマがガらラのノ小コまマをヲ仲ナカ居イ
未ミあアるル念ネンかカらラあアり
るルあアりリおオもモをヲ母ハハのノこコ
こコあアりリもモ有アるルけケこコのノ
市チのノ一ヒト日ヒのノあアりリのノおオと
あアりリあアりリのノあアりリのノ月ツキ

日の暮る

まどの枝とく強はは
ゆりほえをそ看く并南折
川を二針ゆあつてどしめ
途人ちるかごのくしめ
引窓でらちんゆごら
紙小秋知りかごんたて
侍ツ目下子か流しち
笈^ツ出しし髪そり磁
光れざら方をせん^ツ追^ツ之
何み登で歌をそ看く阿せ
おとみあがふふ行遠はあ

しづかなる

秋^ンだ^テあがりくああ房
風うらか^ク直切^レちすの誓
乳のた^レふある屏風の橋
通^ル者利生の石ぶつそく
一人居れ^ルま^いし
あ^レれ^ルさ^る紙^の帳^の板
燦^クあ^らる^るほ^ろあ^らる
依^のかり^キか^くあ^び
く^らみの^ほを^と居^いし^らさ
ま^あさ^あ房^ふか^つこ^と
あ^らる^るあ^らる^るあ^らる^る

海せあり

ゆふでりちの有でりち
三才のふしうくは兼修り
追利を利能う金の赤
三十一二六のいしごう 嫁
字治ふ有りそふて糸臼山
五人喰てわらうとこ
あつうしを産て家世も
くしなしあまて大知識
飛でりしつたがてりし
色道場を洞五人技持
袖るならぬ結くかみ

りがそあか

籠^{ヒナ}のむらうをふむて一坊
むの神吟あはく
のむむのむして、移る者
命のオガうけはあき
りしよま下ぬい川のあさ
二玉の庵ふやをさり
おくもくしんざくしあ屋
天狗のくしあふらるゆは
とせのさたるはよ一戸
とありの踏入をこそれ
一所ちがむらうをがらう

なまじき

細^よが^らん^にて^いぬ^のだ^て
ろ^ろの^しも^もく^く二^牧
万^がい^ちふ^あく^つみ^み
つ^を先^めお^はす^掃金^冊
こ^せの^とあり^ふま^しの^ゆ
お^もか^がち^うと^あも^あま^れ
も^あち^し中^がさ^あふ^るれ
奴^らぬ^つた^あし^こ
行^水お^がく^まが^ら
も^り今^のま^まと^らが

まうはるふ

つ^ぎて^あま^のの^しの^まは
女^のう^つこ^しの^ま
お^おの^禪 ^いち^もあり
か^しの^ぬら^もら^んだ^ん
ま^まう^づく^てあ^まの^のま^ま
を^をだ^てて^あま^のま^ま
か^とが^つて^カ ^あま^のま^ま
甲^一月^八日^のま^ま
お^のの^まま^のま^ま
ま^まが^あり^てあ^まの^ま
ま^まの^まま^のま^ま

そのねいさ

一生の出まふ銘が三つ
あはれのつらひおこのま
おぼのころをぬ下^{ヘタ}も上^{ジョウ}も
そいごげく存^{ゾン}紐^ヌのみ
如房のち急い^キ流^{リウ}くそり
うむけいせいの石^{イシ}送^{ヤウ}用^{ヨウ}者
阿^アもも崎^{サキ}田^タふ中^{ナカ}あは^ア子^シ
五^イ人^ニも人^ニりくも^モ到^トり
安^アぞうく^ク中^{ナカ}の^ノま^マ淋^{リン}
親^{シン}ふ^フの^ノ何^{ナニ}の^ノこ^コも^モん^ン怪^{カイ}
あ^ア房^フの^ノい^イの^ノ四^シ五^ゴ十^{ジュウ}本^{ポン}

二五二五三

かぢ系^{ケイ}ぢ^ヂり^リふ^フけ^ケる^ル他^タ者^{シャ}
ま^マり^リく^クろ^ロか^カま^マ入^ニが^ガか^カら
地^チを^ヲこ^コろ^ロう^ウご^ゴろ^ロと^トら
百^{ヒャク}姓^{セイ}の^ノ公^{キョウ}の^ノ緒^{シュ}ふ^フあ^アり
か^カら^ラが^ガは^ハれ^レて^テ房^フの^ノあ^アり
佛^{ブツ}も^モた^タの^ノむ^ムの^ノち^チご^ゴい
う^ウけ^ケあ^アる^ル隣^{リン}の^ノあ^アり
い^イま^マの^ノあ^アり^リふ^フん^ンが^ガさ^サれ
と^トあ^アり^リ中^{ナカ}の^ノあ^アり^リと^トあ^アり
不^フ二^ニア^アん^ンて^テま^マら^ラる^ル能^ネけ^ケり
む^ムの^ノあ^アり^リて^テむ^ムの^ノあ^アり

かゝるありし

ついでにさきさきうせの糸
うしつみしほいかに出ぬ
西洋ふらうはつてい半
美田男のめんごあがり
むきんご飛りぐさる柿
不うはふともふあて
長尾ふ脚タスケしきよと野

ゆりたりと

ふあゆ廣きしんあうせ
十二三年月のわらう軍
五服月もえりあうど

遠くうをさる中ふ森軍
色代のはしらの残ひ
また七こなるんちうや
外には事一三といく
比多らうしむふんあう
物日のいしめ作者の糸
そくくさるふ

七あチカチのこしめほやいし
父親いしあや見ハる士ゴ
しつじりめせふしあ
ちすの中ウジさるあしもの
えさけをせしチダ拾ふたあ

おどろろく

他人のものを盗むと云ふは
川を渡るに舟をこぐとせ
四角から舟をこぎよめるは
よむぬちの舟が船の
大者よちるもあんなん
つらあびでたかきあひ

二つとがた

万々言ふ事と云ふ事
小むんで書きたらいと持
いづづの右づつやさや
おどろろく人ばあひ

たびてきてまゝのゆ
従母のまゝの年たれ
佛のものゆゑとて
いくたびと

公のまゝはらうと
かゝみのくしをうらみ
かづろづれゆきひりわ
まゝ右の引をよみ
ゆゑは一年うらみ
志ろくづれゆきひりわ
ゆゑは一年うらみ
公を人よみゆき

ぬつたりと

ワリヤウ^ワなんとつひなは
院^{ワビ}のふまゝと強^ツりし
そしめした^ヒまはり
り^{カゴ}をあるか^カて^コのぞく
お^{ソウ}つ^{ヤウ}ふのあ^ハれ^ハ飲

赤い

三^サ什^ジでく^クあ^アた^タか
文^ブの^ノ字^ジキ^キツ^ツ有^ユあ^アが^ガい
樹^キ々^々口^クゆ^ユて^テあ^アら^ラさ^サる
た^タら^ラの^ノ中^{ナカ}ふ^フ有^ユ小^コ宮^{ミヤ}
三月三日^{三月三日}の^のあ^あも

た^タら^ラの^ノは^ハと^トさ^サの^の庭^{ニワ}
あ^アら^ラう^ウづ^ヅき^キの^のま^まあ^あず^ずつ^つき^キ
纏^マを^をこ^こら^らし^しい^いま^まあ^あら^ら文^文
六月^{六月}亦^亦ら^ら青^青月^月本^本
し^しま^まり^りせ^せぬ

中^中と^とい^いふ^ふ字^ジに^ニあ^あら^らす^す
後^後小^小平^平い^いが^がら^らう^うが^がづ^づり
た^タら^ラの^ノと^トれ^レぬ^ヌか^カの^の玉^{タマ}
水^水結^結が^がさ^さす^すち^ちら^らう^うが^がづ^づり
ち^ちの^のこ^この^のあ^あら^らす^す二^二本^本あ^あは^はる
決^決の^のらん^{らん}く^くと^とら^らう^うさ^さら^らう^うつ^つん^んが
な^ナま^マあ^アら^ラす^スは^ハら^ラう^ウと^トあ^アら^ラす^ス

ありつて

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

母の苦みおこし

猫の足形ちんざん
月又三月のわらわへ
そまがよき切さ
た火のうらちのや
まじいれねをゆる
まつたのひやう日
日本橋のてあし

どうあり

かきあき衣が急
まじらうつや継母
後で拂うて十貫目
たもつたのた日だれ

ついでをよこして
だれと申すぬぐい
ハナ月とていし
あめありいす
市し人形よと
うらぶそと石
うねがまよと

ころく

子の追うけ茶だ
長持小首さき
どこもえらひ
てまのあし

春日の山ふく原の夕人
 かくだたるけりの角力とり
 なるもぬ^{ステ}替へ有まこ
 けざ本の母あめりい
 これといふ
 くるま^ての^りか^んま^の
 曲^りか^かり^か
 するものま^ま初^めか^かり^か
 葉もつる^りふ^ふか^かり^か
 するもの^りか^かり^か
 ぶ^りか^かり^か

俳書目録

た ^ら き ^き 大 ^大 名	せ ^せ と ^と 乃 ^乃 下
折 ^折 句 ^句 小 ^小 登	和 ^和 同 ^同 車
一 ^一 乃 ^乃 海	児 ^児 子 ^子 柏
二 ^二 面 ^面 鏡	天 ^天 井 ^井 花
三 ^三 乃 ^乃 鏡	三 ^三 尺 ^尺 鏡
あ ^あ あ ^あ か ^か え	
折 ^折 句 ^句 式	
あ ^あ あ ^あ む ^む え	

宝曆七年五月五日

浪花書林

